



集落全体を囲う電気柵整備と住民全員参加の対策

～持続性のある集落ぐるみ対策を目指して～

露地野菜を中心に農業生産が盛んな集落において広域的な電気柵が設置されていたが、未設置場所からの侵入により被害が継続的に発生していたことから、集落全体を囲う電気柵の設置を推進した。

電気柵は農地水保管理支払交付金を活用して集落全戸で管理しており、また老人会・若妻会・育成会など集落全体で環境整備に取り組んでいる。

市町村	昭和村		
地区	松ノ木第一		
集落戸数	24戸	農家戸数	11戸
農地面積	6,100a		
主な作目	レタス、ハウレンソウ、コンニャク、リンゴ		
出没獣種	シカ、カモシカ、イノシシ		

背景

当地区は露地野菜とリンゴの栽培が盛んであるが、近年はシカ、カモシカ、イノシシによるレタスの食害やマルチの踏み荒らし、家畜飼料の食害等、被害が深刻化していることから被害実態に応じた対策を図る必要が生じていた。



適切な電気柵の設置方法を研修



防草シートを張って電気柵を設置

事業内容

【主な取組】

- ◆ 現地研修会による対策方法の習得
- ◆ 侵入防止柵の効果検証
- ◆ センサーカメラによる出没調査の実施
- ◆ 実績検討会による今後の対策検討

【取組経過】

- H23年 10月 被害対策現地研修会
 10月 電気柵実証圃設置（730m、4段）
 10月 牛舎にセンサーカメラ設置
 H24年 3月 実績検討会



成果

- ◆ 集落住民以外の農地へ電気柵（集落柵）を補填する形で事業を実施でき、電気柵の効果が格段にアップした。
- ◆ 電気柵の管理を班で分担して行うなど体制も確立されている。
- ◆ 老人会、若妻会、育成会も参加して集落全体で環境整備を実施する体制ができている（農地水保全管理支払交付金を活用）。



牛舎の隣接地にも電気柵を設置して防止

地区代表者 コメント

集落全体を電気柵で囲うことができ、被害が大幅に減った。
柵を区間に分けて班毎に草刈りをしており、また交付金も活用してみんなで管理している。



事後評価

指標	A	B	C	D
被害	減った（5-10割）	減った（-5割）	変わらない	増えた
集落環境	改善した	やや改善した	変わらない	悪くなった
出没・目撃	減った（5-10割）	減った（-5割）	変わらない	増えた
集落ぐるみの認識	出来ている	概ね出来ている	一部出来ている	出来ていない
集落ぐるみの体制	出来ている			出来ていない
対策の実施	よく実施している	概ね実施している	一部実施している	実施していない
取組効果	効果あった	概ね効果あった	一部効果あった	効果無かった
継続性	継続している	概ね継続している	一部継続している	継続していない
波及性	波及した	概ね波及した	一部波及した	波及していない
取組度	大変良い	良い	やや良い	不十分
達成度	達成できた	概ね達成できた	一部達成できた	不十分
満足度	大変満足	満足	やや満足	やや不満・不満

センター評価

集落リーダーが農地水保全管理支払交付金の受益地区代表者も兼ねており、その活動と連動して鳥獣対策にも取り組む大変まとまりのある地域である。
老若男女問わず、集落全員が地域の環境整備に関わっていることは素晴らしい。

課題

道路等の開口部からの侵入対策が必要である（折り返し部分を設置しているが侵入がある）。
また、わな猟免許取得者が増えたが実際の捕獲実施まで至らない状況のため、実施隊（猟友会）との連携が必要である。